

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 旭川荘 旭川荘真庭地域センターさくら		
○保護者評価実施期間	令和8年1月17日		令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年12月13日		令和8年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門スタッフ(看護師、OT、PT)が勤務している。	<ul style="list-style-type: none"> 個別で専門スタッフ(OT、PT)によるより専門的な支援を受けることができる。また、長期休暇中には通所日を調整しその専門的な支援を受けることができるように配慮している。 看護師が常駐しているので、医療ケア児も利用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門スタッフから専門的な支援を支援スタッフ(保育士等)が学ぶことで日常的に身体のケア等ができるように取り組んでいく。 医療ケア児のみならず、看護の専門性を活かして相談や支援に応じていけるようにする。
2	ICTの活用ができています。	日々の記録にICT活用している。	他の業務に関してもICT化を目指し、支援に活かしていく。
3	入浴サービスがある。	<ul style="list-style-type: none"> 希望があれば毎通所時に入浴サービスを利用することができる。 温泉を利用した入浴サービスとなっている。 身体状況に応じて、一般浴、座浴、ストレッチャータイプの機械浴での入浴が可能となっている。 	今後も継続して、入浴サービスに応じていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援に対しての振り返りや打ち合わせができていないことがある。	<ul style="list-style-type: none"> 業務時間内に行うことが難しいことがある。 週の中で変則的な勤務となっている職員もいるため申し送りが把握しづらい。 	朝礼伝達メモファイルや利用児の体調管理シートを活用し、その日に共有しておきたいことを記入することですぐに情報がわかるように工夫していく。
2	地域との交流が少ないと感じている職員や保護者がいる。	外部の方を招くお祭りを年1回行っているも、日常的に関わることが少ない。	土曜日や長期休暇中にオープンデイなどを設け、地域の方々を招き、交流の機会を増やし「ひらかれた施設」と感じてもらえるように取り組んでいく。
3	保護者や外部に対しての発信力が弱いため、地域との交流や避難訓練等を行い発信してもいつされているか不明と感じられている。	施設の発信ツールが主に紙媒体の広報誌のみで発信力としては弱いため、印象に残りづらい。	SNSの開設やHPの更新などで発信方法を広げ、また、頻度を上げることで発信力の強化を行い、保護者や外部にもっと施設のことを知ってもらおう。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人旭川荘 旭川荘真庭地域センターさくら

令和8年3月26日

利用児童数 令和8年2月2日 2名

回収数 2

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切 な支 援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2				施設内の他事業の利用者さんと一緒に行う活動もあり、楽しんでいる。	プログラムの多様性を確保しながら、楽しみのあるプログラム作成に努めます。
保 護 者 へ の 説 明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	1			1	施設のお祭りに地域の子どもたちも来ていたようで良い交流となっている。	地域の子どもたちが来て、普段行っているような活動を一緒に楽しみふれあいができるオープンデイなどの機会を作れるように計画してみます。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2					
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2				きょうだいや家族が参加できるイベントもあり、他の保護者とも会う機会が設けられている。	今後もご家族が参加できるような交流の場を設けます。
	19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1			1		避難訓練や防災、感染症など、研修や訓練の様子をHPや広報誌等を通じてお知らせします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2				入浴支援では気持ちよく入浴もでき、ゆったり過ごす時間もある為、安心して過ごしている。	今後も安心して過ごすことができるよう努め、本人様、ご家族の方と連携を取っていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2					
	29	事業所の支援に満足していますか。	2					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	社会福祉法人旭川荘 旭川荘真庭地域センターさくら		公表日				令和8年3月26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		適切である。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		適切である。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		施設全体がバリアフリーになっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		清潔を保っており、活動に応じて空間の配置を変更したりする工夫をしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		個室を設けている。必要に応じて使用することができる。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	2		各々では行っているが、関係職員全体での検討は不十分。職員が広く参画できるように会議の内容を検討する必要がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		評価表集計後、職員間でミーティングを行い、内容によっては業務改善に繋げている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		月に1回程度の定期的な会議を実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		行っていません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1	施設全体での職員研修の機会を設けている。	勤務上の関係で研修への参加が難しいときがある。また、専門的分野の研修への参加はなかなかできていないため、参加できるように調整いく。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		HPでの公表を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		こどもとしっかり関わることで適切にアセスメントを行っている。また、送迎や懇談時に保護者と話をした上でニーズ等を分析することができる。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1	月1回の会議を行い、職員間での共通理解を図っている。	勤務上、会議への全員参加が難しいときがある。そのため、会議録等の記録類での共有し、共通理解を図っていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	1	月1回の会議等や適宜、職員間で共有を行い、よりよい支援を行っている。	勤務上、会議への全員参加が難しいときがある。そのため共有が不十分。会議録等の記録類での共有を図っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	3	インフォーマルなアセスメントを使用している。	フォーマルなアセスメントについてはできていない。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		それぞれに対して適切にねらいや支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	月1回程度の定期的な会議を実施し、共有を図っている。	勤務上、会議への全員参加が難しいときがある。そのため、立案の計画書を全職員が目を通しておけるように回覧等で把握できるようにしていく。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	1	季節の行事と常時行っている活動を織り交ぜながら固定化のないように工夫をしている。	利用回数が少ない月などもある為、難しい面もある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	2	各自、適宜行っている。	業務上、難しい面もある為、特に必要なことは朝礼伝達事項ファイルや利用児の体調管理シートにきちんと残し、チェックできるようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	3	各自、適宜行っている。	業務上、難しい面もある為、特に必要なことは記録に残し、職員間で共有できるようにする。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		ツールを使用しての記録を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		年に2回のモニタリングを行い、見直しを行い、適切な支援ができるようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4		今年度は特に「地域交流との活動」について、地元の中学生とのふれあいができる機会を設けることができた。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		場合によっては児童発達支援管理者や保育士だけでなく、リハビリスタッフが参画する機会がある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		体制を整えているが、必要に応じてとなっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		必要に応じて学校との連携を図っているが、下校後に利用する児はいない。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	1		現在、対象者はいないが密に連携が取れるように対応していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		相談支援事業所、学校、他事業との移行会議の場を設け、情報共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	3		地域の児童発達支援センターを利用している児がいなくても、研修等は必要に応じて受け取ることができる。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	交流するが少ないが、今年度は地域の中学生との協賛マルシェを行い、ふれあう機会があった。	こちらから地域の学校へ出向いたり、オープンデイなどを設け、頻りに地域の人が来られるような機会を増やす。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		真庭市の子ども子育て支援部会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		懇談や送迎時、連絡帳などで連絡や情報共有を行っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		ペアレント・トレーニングは行っていないが、家族会から様々な研修の情報提供はしている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		年に2回、事業所に来てもらい実際どのような環境で過ごしているかを見てもらったうえで計画書を示しながら説明し、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3	1	モニタリング時や送迎時に応じることができるよう支援している。	利用回数が少ないため、電話連絡等で家族との情報共有などを密に取れるようにしていく必要がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4			きょうだい児同士が交流する場がないので、うつぎまつりや家族会での茶話会や勉強会などで、きょうだい児同士での交流の場が持てるような催しを行っている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		苦情相談窓口を設置し、迅速に対応できるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4			紙媒体の広報誌を発行しているが、SNSでの発信はない。SNSでの発信やHPの更新などを行い、発信力を強化していく必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		年に1回、広報誌やSNSなどへの掲載のアンケートを取り、個人情報の取り扱いには十分に気を付けている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		年1回地域の方を招くお祭りを行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	3		マニュアルは作成しているが、家族への周知は不十分。また、利用日数に限りがあるので想定で行うことが多い。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		年間で計画し、訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		必要に応じて、医療指示書やお薬手帳などの提出してもらっている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		3年に1度アレルギーに関する確認事項のアンケートの実施を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画の作成及び研修、訓練を行っている。	行っているが、家族への周知ができていないため広報誌やHPでの公表などで周知を図っていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1	3		避難訓練等の実施については広報誌で発信しているが、安全計画についてはHPでの公表などで周知を図っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットの回覧や1/月回、サービス向上委員会を行い、再発防止に向けて検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止委員会を設置し、年1回の研修を行い、虐待防止に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		現在対象児童は不在だが、場合によってはしっかりと対応した上で計画に記載するようにしている。		